

子ども安心「第三の居場所」

徳島に小中生向け施設



「周囲と関わることで世界を広げてほしい」と話す田中さん（左）と斎藤さん

勉強や生活「必要な支援届けたい」

様々な事情を抱える子どもが家庭でも学校でもなく安心して過ごせる施設「まちのThird Base」が徳島市津田本町に完成し、今月から運用を始めた。毎月1回、子ども食堂を開いている社会福祉法人「あさがお福祉会」（徳島市）が運営。関係者は「子どもを支援してきた経験を生かし、一人一人に必要な支援を届けたい」と話す。（三塚明絵）

同法人は高齢者施設や放課後デイサービスなどを運営する傍ら、子ども食堂のほか、支援が必要な家庭に食事を届ける「宅食サービス」を手がけ、不登校や貧困、ネグレクト（育児放棄）に悩む子どもたちを見守ってきた。施設管理者の田中智子さん（50）は「状況が悪化する前に、救える子どもを救わ



子どもたちが過ごせる施設のリビング（いずれも徳島市で）

ないといけないと使命感を感じた」と施設開設に至った理由を話す。

日本財団などが全国展開する「子ども第三の居場所」事業に採択され、その助成を活用。同法人がかつて運営していたグループホームを改装し、1階にはリビングやキッチン、風呂を備え、2階には学習部屋など計5部屋を設けた。

利用対象は小中学生で、定員は15人。学生ボランティアが宿題をはじめ勉強の面倒を見る。子どもを取り巻く家庭の生活状況に応じて、夕食や入浴、洗濯など生活全般をサポートする。保育士資格を持ち、療育に慣れた職員ら2〜3人が常駐する。

現在は放課後から夜9時までの預かりが中心だが、今後は朝から夜まで滞在できるショートステイや、利用者の年齢層を拡充。虐待など事情があつて家に帰れない子どもが一時的に身を寄せられる緊急避難先「シェルター」としても整備していく

予定だ。

保育士でもある常勤スタッフの斎藤悦美さん（26）は「不登校の子は自分に負い目を感じている子が多い。自信を持って生活できるようサポートしていきたい」と話す。

「第三の居場所」は全国に256か所（5月末時点）ある。「まちのThird Base」は県内5か所目、他に鳴門市に2か所、徳島市と阿南市に各1か所開設されている。